

薬害に関する資料等の調査・管理・活用等に関する研究

(課題番号: H25-医薬-指定-003)

平成 25 年度厚生労働省科学研究費補助金 研究現況調査 総括報告書

2014 年 3 月

研究代表者 金 慶南

(法政大学大原社会問題研究所准教授)



目 次

I. 研究概要	1
研究目的 研究方法	
結果と考察 結論	
II. 資料現況調査報告書	4
薬害に関する資料等の調査・管理・活用等に関する研究 資料現況調査報告書	
III. 研究報告・講演資料	13
1. 研究報告	14
2. 講演資料	15
IV. 調査資料編 (9団体)	28
1. (A) 薬害〇〇〇訴訟 (収集記録、記録管理の現状と課題)	29
2. (B) 薬害〇〇〇訴訟 (収集記録、記録管理の現状と課題)	34
3. (C) 薬害〇〇〇の会 (収集記録、記録管理の現状と課題)	38
4. (D) 薬害〇〇〇の会 (収集記録、記録管理の現状と課題)	42
5. (E) 薬害〇〇〇原告団 (収集記録、記録管理の現状と課題)	44
6. (F) 薬害〇〇〇会 (収集記録、記録管理の現状と課題)	48
7. (G) 〇〇〇原告団 (収集記録、記録管理の現状と課題)	52
8. (H) 〇〇〇協議会 (収集記録、記録管理の現状と課題)	56
9. (I) 〇〇〇薬害団体 (収集記録、記録管理の現状と課題)	61
V. 参考資料・参考図書	65
参考資料：目録フォーマット (記入例・注意事項)	66
参考文献	67



I. 研究概要

研究目的

医薬品等による薬害事件は、その発生から年月が経過するにつれて、被害者やその家族の高齢化等により薬害に関する貴重な資料等が、適切な管理・保管がなされないままに散逸が進み、失われていってしまう可能性が非常に高くなっている。そのため、被害者個人や団体が所有している資料等の状況・状態について速やかに調査を行い、資料等を統一的・体系的に分類・整理・保管するための手法を検討・実践することが必要である。それにより資料等の亡失を防ぎ、今後、薬害に関する啓発や教育、研究等への効果的な利用とともに、被害者等対策への検討材料として活用することができるようすることによって、国民の医薬品等の安全対策への認識の向上、薬害の再発防止に寄与することを目的とする。

当研究は、2年研究計画で、まず、1年目は、薬害被害とそれに対する支援運動がさまざまな場所で起こる過程で蓄積された資料の現状を把握することを目指した。2年目は、現場の記録を体系的に分類・整理・管理する方法の構築を目的としている。

研究方法

研究方法は、記録管理学的な観点からアプローチする。記録といふものは、文書・視聴覚などの作成・活用・破棄あるいは保存というライフサイクルがある。すなわち、それぞれの個人・団体は、目的を達成するため、起案、議論、決定・決済過程を行う。そのとき、作られた文書・視聴覚資料は、プロジェクト終了後永久保存あるいは破棄されるサイクルを持っている。記録管理学的な観点から見ると、歴史的に価値がある記録、証拠となる記録、行政的に必要な記録は、永久保存が必要と思われる。このように、歴史的・証拠的・行政的価値のある記録を永久保存するため、目録記述・評価・選別作業が必要となる。調査方法としては、活動の流れに沿ったインタビュー調査、現場調査を行って、記録学観点から分析した。現場調査では、記録管理概要、レイアウト図、保存量計測、形態別調査、デジタル化有無、機密記録の管理状況などを調査し、保存状態に対する全体像を把握した。

当研究は、薬害に関する貴重な資料を体系的に管理・保存するため、2013年度には、薬害被害関連9団体の記録管理状態を調査し、概要作成や仮マニュアルを作成した。2014年度は、現場を訪ねて、記録管理の手引き・マニュアルに基づいて、目録作成・評価・選別・保存方法などに関する指導を行う。

結果と考察

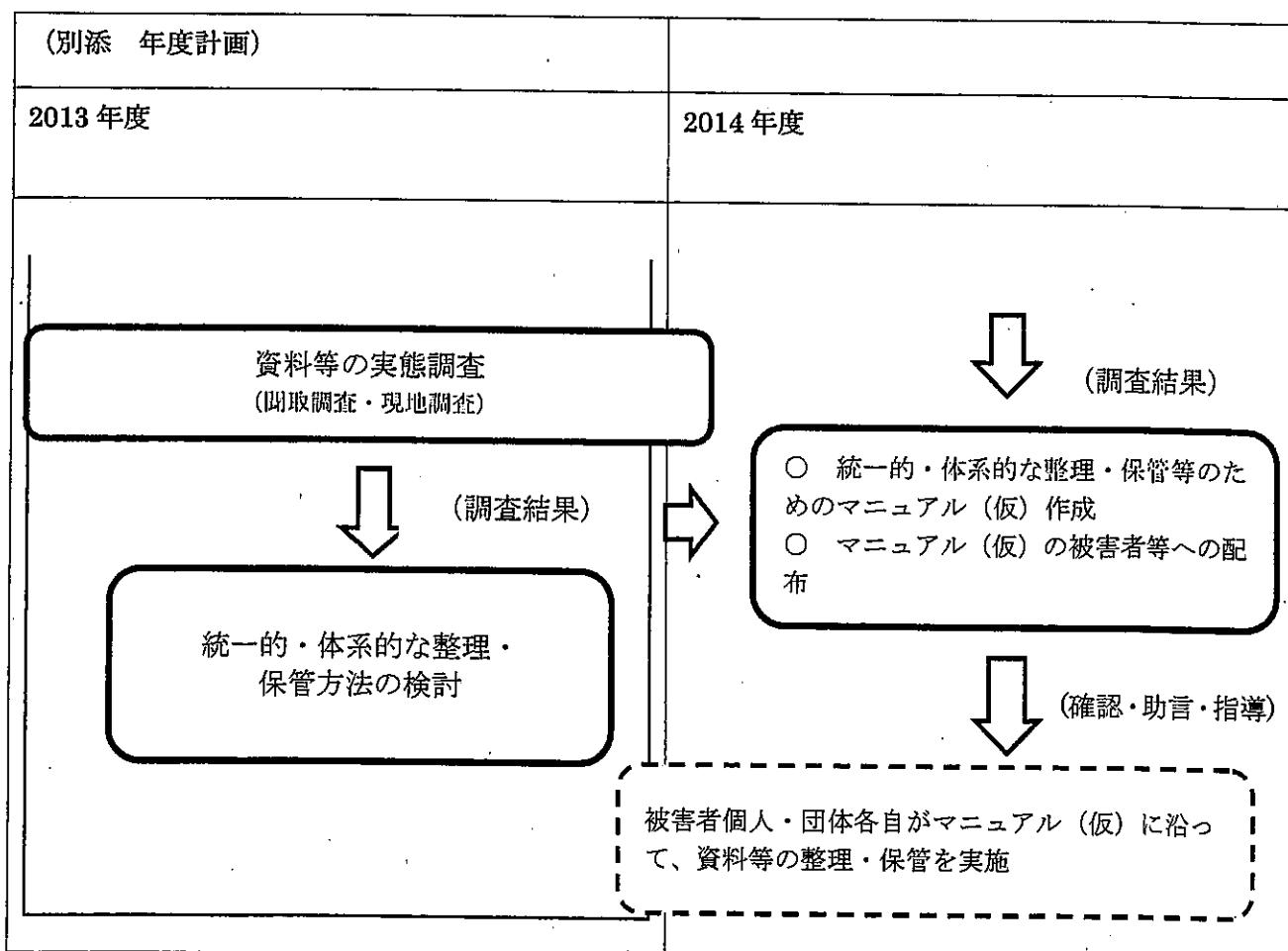
今年度は、薬害被害者9団体(薬害肝炎・スモシン・サリドマイド・陣痛促進剤・HIVなど)を事例に、記録管理状況について調査を行った。調査結果、作業人員・資金・保存書架など資料整理体制が整って目録化・電子化まで進んでいる団体もあるが、放置状態にある団体もあるためギャップが大きい。特に、調査団体の資料は、個人情報など秘密管理をする資料が多いため、記録を管理する際には、極めて注意が必要だと思う。調査の際には、まずインタビューから開始し、運動発生の経緯にしたがってどのような資料が蓄積されてきたかについてインタビューフォームに沿って綿密な聞き取りを行ったのち、保存されている資料を拝見した。その結果、資料種

別や資料量、資料保存・整理状況の全体的・体系的な把握しながら、それぞれの団体が抱える課題を明らかにした。さらに、紙資料の保存や目録フォーマットを使用した整理方法などを、団体ごとに提案した。調査・聞き取りに協力して頂く過程で、資料所蔵者の保存・整理に対する意識が変わっていくケースも見受けられた

結論

要するに、現在、運動している団体の資料も、記録管理に対する専門的知識不在、人件費、スペース問題などがある、体系的な資料保存は難しい状態である。活動が終わった団体は言うまでもないだろう。薬害に関する啓発や教育、研究等への効果的な利用のため、また貴重な資料の永久的保存のためには、現在、使っているレコードをきちんと分類・管理しなければならない。薬害を受けた人は、命をかけて記録している。本研究チームと九つの薬害団体は、資料等を統一的・体系的に分類・整理・保管するための手法を検討・実践している。これにより、資料等の亡失を防ぎ、重要な記録を啓蒙・教育素材として使うことができると思う。

今後の課題は、九つの薬害団体を事例に、より全体の内容を把握するため、研究チームが配布する資料管理手引き、フォーマットにしたがって、各団体が資料整理を行うことである。それに際して、各団体に資料整理人員・保存容器などの確保が必要である。また、薬害団体の活動のため、各地方自治体が保有する医療関連記録の保存状況、閲覧対応についても、過去の事例から考察することや、海外での薬害被害事例などを考察する必要があると思う。かつ、薬被連参加団体全体で足並みをそろえた体系的な整理が必要であると思う。



II. 資料現況調查報告書

○
○
○
<注記>

- ◎団体の情報を保護するため、調査対象の団体名、人名などを匿名に記されている。
- ◎団体・個人の情報を保護するため、書架・人物の写真は掲載していない。
- 本文に掲載している写真（黒塗り写真を含む）は、団体の承諾をえて掲載している。

2014 年 3 月 31 日

研究代表者：金慶南

調査者：金・牧野・齋藤

1. はじめに

1) 研究・調査の目的

当研究は、薬害被害とそれに対する支援運動がさまざまな場所で起こる過程で蓄積された資料を体系的に把握し、将来に向けて整理する方法の構築を目的として行われている。具体的には、全国薬害被害連合に加盟している 11 団体がさまざまな形で保存している各種資料の内容、種別、保存状況、整理状況を把握し、関連団体全体で相互に参照し合えるよう枠組みを構築することが、科研期間中の目標となる。

2) 各年度における達成目標

●初年度（2013 年度）

10 の薬被連団体における資料現況調査、全国の薬害資料調査／記録管理に対する理論的調査・研究／薬害に関する啓発や教育のための関連施設見学

●次年度（2014 年度）

資料の収集・整理・保存に関するマニュアルの作成／各団体への記録管理指針の配布／関連施設見学／研究発表

3) 調査従事者

金 慶南 研究代表・法政大学大原社会問題研究所准教授

齋藤柳子 法政大学薬害科研 RA・学習院大学大学院アーカイブズ学専攻博士後期課程

牧野 波 法政大学薬害科研 RA・東京外国语大学大学院地域研究科博士後期課程

平野 泉 立教大学 共生社会研究センター 学術調査員

石原一則 学習院大学 非常勤講師

平川千宏 市民・住民運動資料研究会

孫 孝珍 法政大学薬害科研臨時職員・一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程

2. これまでにおこなった調査について（概要：表1、表2参照）

<表1> 2013年度 薬害被害者団体 記録管理 現状調査結果 2014.03.26現在

訪問日	団体	保有量 fm	記録管理の概要
2013.09.30	(A) 薬害 ○○○訴訟	26.2	弁護士が指示し、整理担当者が実施する記録管理体制ができている。裁判記録も同所で保有し、収納スペースが不足気味である。一部、ファイル名記載がないファイルが散見される。VHSのデジタル化実施予定。
2013.10.30	(B) 薬害 ○○○訴訟	11.6	他団体と同居の事務所であり、保管庫内で混在が見られる。裁判関係文書は城北法律事務所で所有し、当所では存在しない。紙文書のPDF化を推進している。ファイル名の記載があいまいで、検索に手間取る。
2013.11.13	(C) 薬害 ○○○の会	29.8	1970年代から歴史がある団体であり、会員の高齢化が見られる。会計記録が多い。記録をよく残しているが、一部、誤廃棄もあったという。裁判記録は弁護士事務所で保管されており、当所では個人別経過ファイルを管理している。8ミリフィルムは媒体変換されたが、カセットテープ、VHSからの媒体変換は全くなされていない。
2013.11.13	(D) 薬害 ○○○の会	18.0	概念的には整理され、活動の各段階(A~K)でどのような記録が発生したか体系化されている。しかし、ファイル実物は全く未整理と回答であった。先方の希望で、調査はインタビューのみである。(保有量はインタビューより推定)
2013.12.11	(E) 薬害 ○○○原告団	11.0	城北法律事務所で紙ファイルを所有する一方、すべての紙文書をスキャニングし、レンタルサーバー上で電子文書をフォルダーツリーで体系化し、関係弁護士、会員間で共有化している。しかし紙文書は、本を出版するまでは廃棄しない方針である。その他、旗、腕章、漫画、出版物、裁判時のグッズ「勝訴」等の現物もある。
2013.12.18	(F) 薬害 ○○○会	16.3	基本は個人別訴訟であり、裁判記録は各会員が保管している。元看護師で被害者の事務局長が会員の相談に応じ、さらに医療関係者や学生に教育普及活動を行っている。情報は集中管理され、近年は電子メール、ワードでPC内で管理しているが、それ以前の紙文書は押入れの中に、ダンボール箱やクリアケースで収納されている(ファイル用品はあまり使われておらず、横積み状態)。記録名はリスト化されていない。VHSの媒体変換は未実施である。会員誌のバックナンバーの保有量が多い。
2013.12.23	(G) ○○ ○原告団	123.2	ビルのワンフロアで、資料の保管場所は5か所に機能別に分かれ、組織化された記録管理が実施されている。その状況は9団体中のトップレベルである。知的蓄積として「資料館映像データベース」を作成しているが、センシティブ情報が多く、非公開である。収納のためのキャビネット類も整い、管理スタッフの世代も若い。
2014.02.12	(H) ○○ ○協議会	13.3	当会は地区別で活動しており、各支部が記録管理をしているので、当事務所の保有記録は、会報や全国大会ものが中心であり、裁判記録等は存在しない。事務所スペースが狭いので、かなり廃棄をしてしまった(直近5年分保管)。一般文書は少なく、全体の61%は書籍冊子である。すでに法政大学大原(研)に移管したものもある。整理要員は後継者がおらず、困っている。
2014.03.05	(I) ○○ ○薬害団体	79.1	戸建て家屋の1階に書庫があり、移動棚で合計15本の6段棚がある(収納スペースほとんど満杯)。1970年代からのセンシティブな個人情報が多く、施錠されている。ファイルを見せてもらえたのは、4点程である。2年前に一度、重複したものは廃棄した(シュレッダー車で目前で委託業者が処理)。現在、床上に8個のダンボールが未整理状態。匿名化されていないものが多く、現状では公開はできない。
2014年4月予定		-	-
今年度実施予定なし			

<表2> 薬害被害者団体 資料保有状況一覧表 2014.03.26現在

団体	資料形態	電子化進捗	保存媒体の変換	保存状態	整理ツール有無	整理人員有無(人数)	個人整理or弁護士整理	団体高齢化	地域的ネットワーク有無	スペース	裁判記録有無
(A)薬害○○○訴訟	P,V,B,E	△	○	○	有	2	弁護士	無	有	不足	有
(B)薬害○○○訴訟	P,M,V,B,E	△	×	△	有	1	弁護士	無	有	不足	無
(C)薬害○○○の会	P,M,V,B	×	△	△	有	2	個人	有	有	普通	無
(D)薬害○○○の会	P,V,B,E	△	未調査	未調査	有	1	個人	有	有	普通	有
(E)薬害○○○原告団	P,M,V,B,E	○	○	○	有	1	弁護士	無	有	普通	有
(F)薬害○○○会	P,V,B,E	×	×	△	無	1	個人	有	無	普通	有
(G)○○○原告団	P,M,V,B,E	○	○	○	有	3	個人	無	有	潤沢	無
(H)○○○協議会	P,V,B	×	×	△	有	2	個人	有	有	不足	無
(I)○○○薬害団体	P,V,B,E	△	△	△	有	2~4	個人	無	無	不足	有
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

資料形態：紙資料=P、モノ資料=M、視聴覚資料=V、書籍等刊行物=B、電子資料=E

○：良好、△：一部課題あり、×：実施されていない

1) 2014年3月までに調査を実施した団体(場所・面談者)

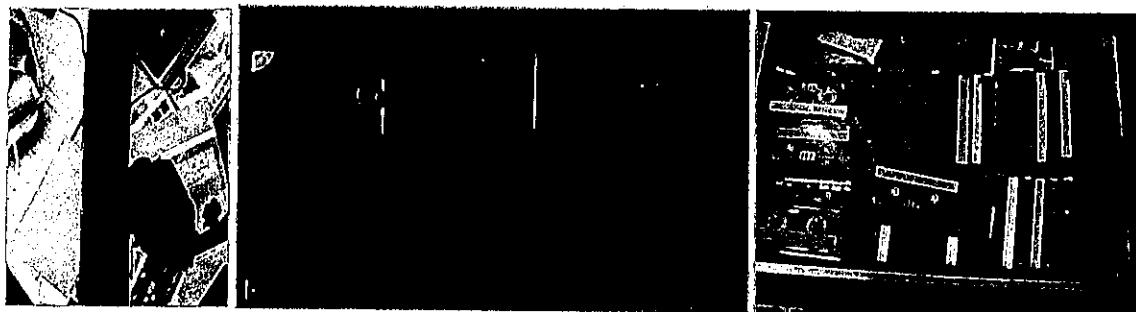
- ・(A) 薬害○○○訴訟 (○○○事務所・3人)
- ・(B) 薬害○○○訴訟 (○○○センター・4人)
- ・(C) 薬害○○○の会 (○○○会事務所・2人)
- ・(D) 薬害○○○の会 (○○○会事務所・1人)
- ・(E) 薬害○○○原告団 (○○○事務所・1人)
- ・(F) 薬害○○○会 (○○○会事務所・1人)
- ・(G) ○○○原告団 (○○○原告団事務所・5人)
- ・(H) ○○○協議会 (○○○協議会事務所・1人)
- ・(I) ○○○薬害団体 (○○○事務所・2人)



2) 調査によって把握された資料収集・整理・保存の現況

● 収集されている資料の形態種別

- ・裁判資料、個人別ファイル、厚生労働省ファイル、カルテ
- ・ニュースレター、啓蒙パンフレット
- ・経理・会計資料
- ・団体出版書籍・薬害関連書籍
- ・モノ資料：薬剤そのもの、たすき、幟、写真パネルなど
- ・視聴覚資料：8mm フィルム、映画フィルム、DVD、VHS テープ
- ・写真、カセットテープ音源、OHP、レントゲンフィルムなど



● 収納スペースと資料量

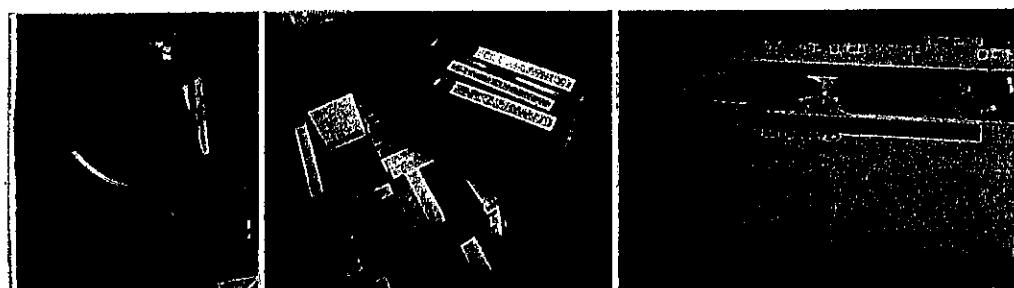
保有資料量の多さは、一位が (G) ○○○原告団 (123.2fm)、二位が (I) ○○○薬害団体 (79.1fm)、三位が (C) 薬害○○○の会 (29.8fm) である。一位と最下位 (11.0fm) では、11倍以上の差が見られる。保有量の差の主な理由は、事故発生年代、被害者数、裁判記録の紙ファイルの有無である。裁判記録は、弁護士事務所で保管されている場合が多く、被害者団体事務所にはないケースもある。さらに、収納什器としての保管スペースが確保されているか、別フロアや他の場所に書庫スペースがあるか、廃棄を実施したか等の理由による。



● 資料の保存状況とデジタル化

紙資料で保存されているものはほぼすべて、それぞれ温度・湿度対策のなされていない室内的書架にバインダーや段ボールなどにまとめて保存されている。1970年代の紙資料の中には感光紙で印刷されたファックスの書簡などもあり、早急なスキャニングの必要性も認められる。その他視聴覚資料やモノ資料についてもほぼ同様の経年変化の状況にあり、テープやディスクなど、それぞれの媒体に即した保存環境の改善が求められる。

また、2000年代の訴訟や支援運動が起こった団体については、裁判資料やニュースレターの内容などがPDFやWordファイルなどでデジタル保存され、それらはクラウド・ストレージサービスを利用しているケースも見受けられた。



● 資料の整理状況

最もよく整理されているのは裁判資料である。背表紙にもファイル名が「甲・乙・丙」の区分で詳細に記載されている。弁護士事務所では、時系列・内容別にファイリングされている。データベースを活用して保存している場合は、裁判所と共に分類で仕分け、遠隔地の弁護士でも相互に把握しやすいように体系化されている。文書の分類は、水俣病、ヤコブ、HIV等の経験により、分類項目はきちんと定めた方がよいということを裁判所と協議し、開始したそうである。

一方、改めて参照する必要があまりないニュースレターやモノ資料などについては、量としてはどの団体でも少なくないものの、整理がほぼ手つかずの場合が多い。また視聴覚資料なども、ダンボール1箱程度にまとめられているだけで、アイテムごとの目録などは作成されていない場合が多い。媒体変換も今後の対応を待っている状況である。



●整理要員と保存媒体の手当について

世代格差により、状況は様々である。高齢化した団体では、整理整頓、廃棄は実施しても、電子化や媒体変換は行われていない。一方、30~40歳代の要員がいるところは、目録化や電子化、媒体変換にも着手している。また一人で保管しているところは、文書箱や中性紙封筒等の手配や整理方法の手ほどきが必要と思われる。

3) 調査チームの活動と現時点における成果

調査はまずインタビューから開始し、事故発生の経緯に従い、「どのような資料が蓄積されてきたか」について、インタビュー・フォーマットに沿って綿密な聞き取りを行ったのち、現場で収納スペースのレイアウトや什器本数、資料量、ファイル形態、整理状況、保存状況を観察し、確認した。

さらに、インタビューと資料保管状況の把握に基づいて、中性紙の文書保存箱を使用した紙資料の保存や目録フォーマットを活用した体系化を、各団体の事情を踏まえつつ調査現場で提案した。さらに、薬被連参加団体全体で足並みをそろえた体系的な整理が必要であることをその都度提案している。調査・聞き取りに協力して頂く過程で、資料所蔵者の保存・整理に対する意識が変わっていくケースも見受けられた。

今後は、調査の終わった団体に対して、配布する「資料目録フォーマット」に従い、各団体が所蔵している資料の内容を入力して頂き、統合的体系化を進めながら薬害関連資料の全体像の把握をより具体的に明らかにしていくことを目指している。その際、各団体に資料整理チーム（責任者と補助、あわせて1~2人程度）が必要であると見込まれるが、団体によっては、人員を確保できるかどうかが、当面の課題である。

4) 資料の機密性と保存・公開の意義について

1970年代に被害が発生した団体で特に見られることであるが、資料が匿名化されておらず、医学的記録にはセンシティブ情報が多く含まれ、プライバシー保護の観点が重要な課題であり、保存の手当ではしても、現状では公開は難しいと思われる資料が多い。

公開にあたっては、何のためにこのプロジェクトがあるのか、アーカイブズの意義を明確に示す必要性が求められる。二度と薬害の被害が発生しない社会をつくるために、被害者が命をかけて苦労してきたことを埋没させることなく、被害発生の構図と被害状況を明らかにした資料、権利を勝ち取るまでの裁判の経過等について、将来的に伝承し、次世代に引き継がなければならないという使命である。さらに具体的に述べれば、問題発生の起因となる薬の開発と厚生労働省認可の関係の課題を明らかにし、なおも利用者としては薬の投与を受ける際に警戒心を持ち、医学関係者と綿密な話し合いを行う等である。（特に新薬治療を受ける時は、投与日時や投与量、回数、医師の発言等すべてメモを取り、点滴薬剤や注射の写真も撮影する等。）

医療事故に対応するため、カルテ開示、改ざん防止のために、医療現場においてなによりもまず記録を確実に残すこと、複数の立場でチェック体制があること、適切な保存環境で保持できることである。カルテの法定保存年限が5年であることは短いと言わざるを得ない。医療機関において、カルテがアーカイブズとなるために保存期間満了後、膨大カルテの山から、特異な症例だけを評価選別する作業は、医療関係者でなければ難しいと思われる所以、現用の段階で評価選別基準が設定されていることが望ましい。今後、電子カルテの時代であれば、医師が診察期間終了後、研究上の観点からも、長期に残すべきカルテの選別を容易にできる体制が求められる。

薬害〇〇〇訴訟においては、行政の情報隠蔽があったことも、後世に伝えなければならない。公務員の場合、公文書管理法がその行為に対して規制する。さらに裁判となった場合、提出記録作成過程の資料管理、被害者の健康維持管理上の記録または介護体制の記録等も弁護士、家族、本人が分担して係わることになる。

最後に、PMDA (Pharmaceutical and Medical Devices Agency) : 医薬品、医療機器等の審査及び安全対策、並びに健康被害救済の公正な遂行と国民の健康・安全の向上に貢献する独立行政法人の存在意義を広め、薬害被害防止への関心を高めなければならないと思われる。

「1980年代から90年代にかけて問題化したインフルエンザ・MMRの被害発生後、1994年の法改正により予防注射は義務接種ではなく勧奨接種へ転換した。その後、厚生労働省は国民を「規制」する立場から、「条件整備」を行う存在へと役割を大きく変えた¹。今までのお仕着せ通りいつのんの医療政策は、通用しなくなったというものである。これから生きる日本国民は、自分の命を守る自己責任と病気を周囲に蔓延させない社会的責任の両方を備えなければならない。医療は与えられるものではなく、自ら選択するものであり、その分、利用者は治療で受けた施術や薬剤を調べ、賢く情報を収集し、記録する必要がある。そこに薬害被害者が協力しあう団体の存在と問題解決の実際を、社会に問う意義がある。今回のプロジェクトで収集されつつある資料群により、過去の被害発生の構図と被害者の苦しみを、世の中で一人でも多くの人々に共有・認識されることを願いたい。

次年度の課題として、地方自治体が保有する医療関連資料の保存状況、閲覧申請についても、どのように対応したか、過去の事例から考察することや、海外での薬害被害対応事例等を考察してみたい。

¹手塚洋輔『戦後行政の構造とディレンマー予防接種行政の変遷』藤原書店 2010年、p.170-171

III. 研究報告・講演資料

1. 研究報告

<講演会>

第1回 薬害資料調査のための会合について
2013年度8月24日(土)13:30~15:30
場所:厚生労働省共用第6会議室(2F)
講演:資料保管の重要性及び方法等の基礎的な知識
講師:法政大学大原社会問題研究所、准教授金慶南
対象:被害者団体23名

<報告会>

第12回 薬害を学び再発を防止するための教育に関する検討会
2013年10月01日(火)14:00~16:00
場所:厚生労働省6階専用第23会議室
講演:薬害資料等の調査・管理・活用に関する研究
講師:法政大学大原社会問題研究所、准教授金慶南
(説明:訴訟団体事務所の調査目的、学習院大学大学院アーカイブズ学専攻
博士後期課程 斎藤柳子)
対象:教育委員、一般人

<研究会>

第6回 環境。市民活動資料アーカイブズ資料整理研究会(共同:薬害資料整理研究会)
日 時:2013年9月18日(水)
場 所:法政大学多摩校舎・大原社会問題研究所会議室

報告者:栗原敦(京都・島根ジフテリア予防接種禍事件研究会・MMR(新3種混合ワクチン)被害児を救済する会)
題 名:強制予防接種の薬害—行政資料等の現況と課題—

報告者:橋本陽(法政大学大原社会問題研究所 RA)
題 名:「サリドマイド関連資料」の「分類」について

第7回 環境。市民活動資料アーカイブズ資料整理研究会(共同:薬害資料整理研究会)
日 時:2014年1月24日(金)
場 所:法政大学市ヶ谷校舎・ボアソナードタワー5階507教室
報告者:金慶南(法政大学准教授)
題 名:「旧市民活動サービスコーナー」資料群の概要と今後の課題
報告者:大町麻衣(環境アーカイブズ臨時職員)
題 名:ミニコミ資料類の整理実務
報告者:北川洋子(環境アーカイブズ臨時職員)
題 名:書籍類の整理実務
報告書:金慶南・斎藤柳子(学習院大学・アーカイブズ学専攻博士後期課程)
題 名:現用記録管理の現状と課題—薬害資料を中心に

※ 第6回・第7回は、薬害資料整理研究会との合同企画

2. 講演資料

2013年10月1日 配布資料：第12回 薬害を学び再発を防止するための教育に関する検討会

2013年10月01日、於：厚生労働省

薬害資料等の調査・管理・活用に関する研究 (平成25年度厚生労働科学研究費補助金)

1
金 慶南 (キム・ギヨンナム)
法政大学大原社会問題研究所 准教授

2 薬害資料とは

- 薬害資料とは、薬品被害にかかわるすべての文書、視聴覚、モノ資料、電子資料を含む記録と記憶を称する。その事例としてサリドマイド、スモン、HIVなどと関連した資料
- 過去のアーカイブは未来の実を作る種子

アーカイブズとは

- アーカイブズ (Archives)は、文書、手紙、レポート、メモ、写真、映像などから、データと証拠を歴史的史料として集めていくことができる場所。資料の収集、整理、研究の専門職としてアーキビストがある。
- 公文書館は、歴史的な史料としての公文書（条約、宣言、外交文書、政府関係者の報告書や伝達メモなど）を保管し、公開する機関、施設である。

薬害資料の必要性と重要性

- 証拠資料としての価値—裁判
- 歴史資料としての価値
過去の過ちに対する認識と反省は現在と未来を作っていく種子
- 行政補充的価値
公共機関あるいは関連企業などで作成された行政記録に対する補充的役割
- 国民啓蒙のための基礎資料としての価値

5

薬害資料管理の現状

- ▶ 薬害資料管理を専担している機関なし
- ▶ 現用記録管理（レコード管理センター）
 - 行政機関（厚生労働省・法務省・内閣など）
 - 薬剤会社（薬害関連会社）
 - 薬害市民団体・被害者
- ▶ 歴史記録管理（アーカイブズ）
 - 大学（法政大学大原社会問題研究所）

6

行政機関における資料管理のシステム

レベル：法律

システム：各機関の部局別レコード管理

→ 国立公文書館のアーカイブズ管理

▶ 目的：政府の公文書と歴史的価値のある資料を保存する

7

各国の公文書館

- 日本（国立公文書館：1971年開館、2011年4月、公文書館の資料管理に関する法律施行）
- 韓国（政府記録保存所→国家記録院：1969年開館、2000年1月、公共機関の記録物管理法律施行）
- アメリカ（United States National Archives and Records Administration、1937年開館、NARA記録管理法律施行）

8

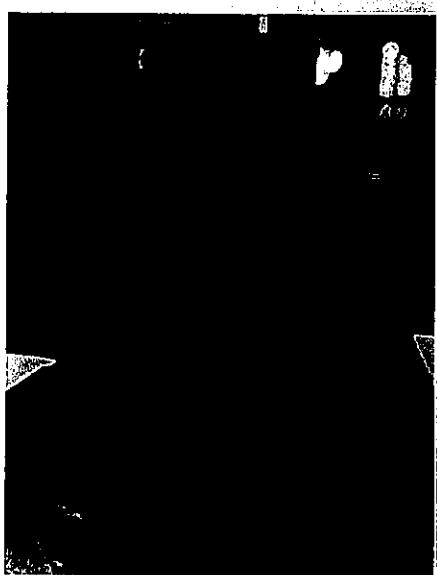
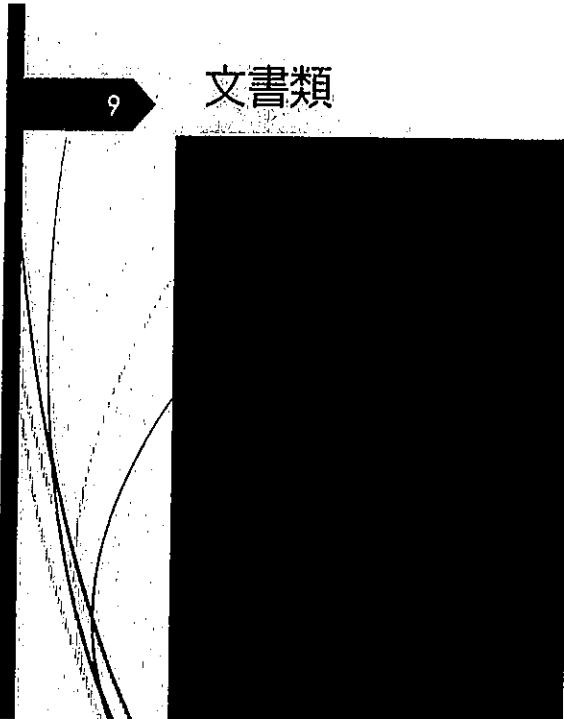
資料館

YALE UNIVERSITY (アメリカ)



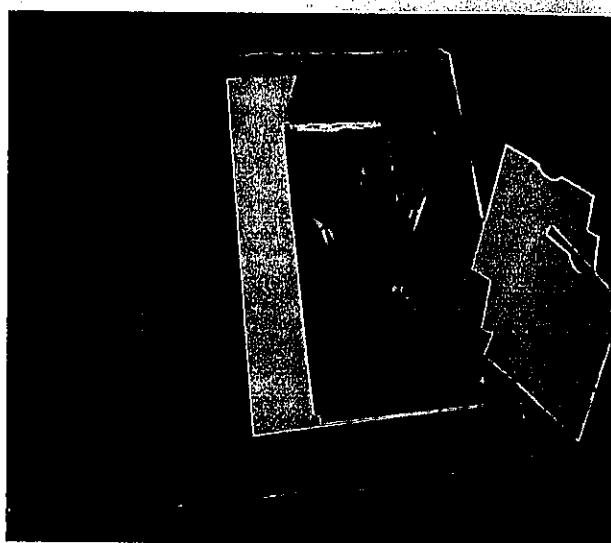
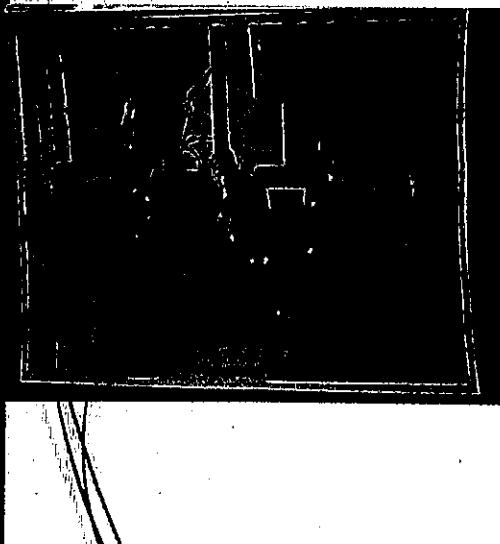
文書類

9



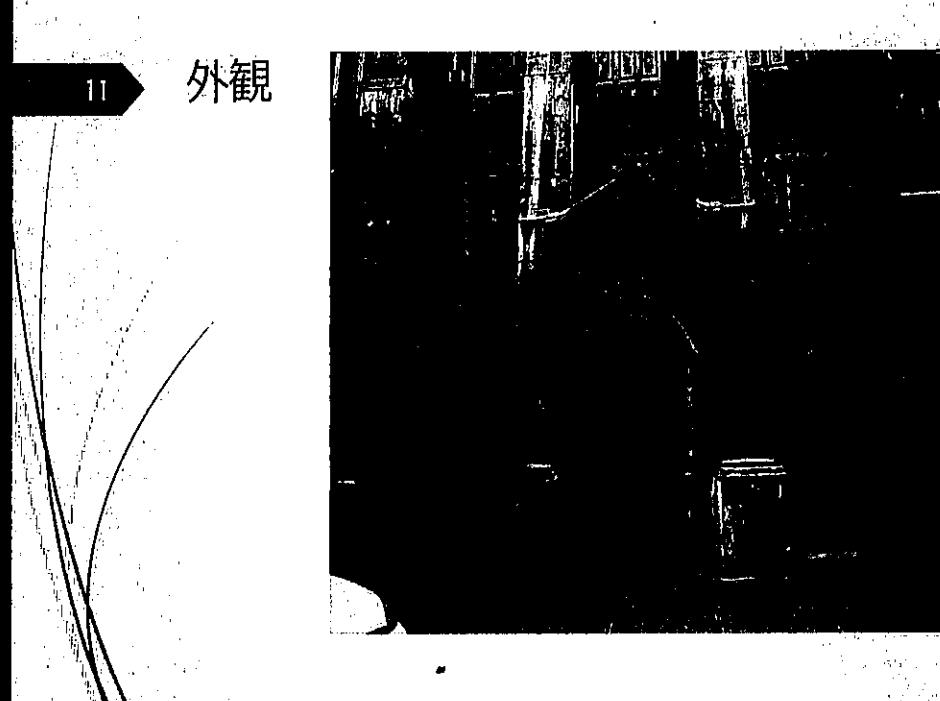
写真類

10



11

外観



12

さまざまな資料管理の方法

■ 国レベルの資料管理

公文書館資料管理法による資料管理（業務が終了したら文書を国立公文書館へ移管、主に永久保存記録）

■ 民間レベルの資料管理

個人情報保護法律・各機関別管理指針による資料管理（個人所蔵資料→大学・民間資料保存機関へ寄贈、主な市民活動記録保存大学：法政大学・立教大学・埼玉大学）

■ 資料所蔵者と専門家チームの共同資料管理

資料が所蔵されている場所で、専門家チームと一緒に共同管理（安藤正人教授チーム：伊江島の阿波根さん資料、金慶南チーム：原子力資料情報室の資料）

薬害資料管理の課題

- ▶薬害資料に対する概要調査
(法政大学薬害研究チーム：金慶南研究室)
- ▶被害者及び被害者団体の資料管理状況の把握
(薬害被害11団体)
- ▶資料の作成、保存方法などのマニュアル作成・勉強(共同)
 - 文書、メモ、日記、裁判資料、市民活動資料、インタビュー、モノ資料

2年間（2013－14年）の研究・資料管理体制

- ▶レコード資料センター機能の構築
(現時点で資料担当者を置くこと。いずれ、各団体ごとに資料管理事務局の構築)
- ▶マニュアルを作成
(法政大学薬害研究チーム：金慶南研究室)
- ▶資料の管理：薬害11団体

2013年度の研究目標

- 薬害被害者団体11か所の資料管理状況調査

現地調査（各団体の業務分析、資料量、資料保存場所、資料の管理現況調査など）

→ 資料管理の概要作成

研究体制の特徴

- 民・官・大学の共同体制

民：薬害被害者団体

官：厚生労働省

大学：法政大学（研究主体）

協力：各分野の研究者

調査対象団体一覧

● 調査対象団体の要請により省略

▲研究チーム名簿と担当業務
2014年2月現在

研究室メンバーと担当役割			
区分	氏名	所属	担当役割
研究代表者	金 慶南	法政大学 大原社会問題研究所 准教授	総括 (現地調査 インタービュー調査)
研究協力者	斎藤柳子	レコード・マネジメントのコンサルタント (学習院大学大学院アーカイブズ学専攻博士後期課程)	各薬害団体の概要作成(各団体の業務、場所、資料の管理現況調査など)、(現地調査 インタービュー)
事務局・研究協力者	牧野 波	法政大学 大原社会問題研究所 RA	事務局、現地調査、インタビュ
研究協力者	平野	立教大学共生社会研究センター	マニアル作成の準備事項の検討
研究協力者	石原	学習院大学 講師	行政文書 企業文書と薬害資料の関連性検討
研究協力者	平川	市民活動情報センターをつくる会、前国薬害資料の所在調査会図書館	資料の所在調査
研究協力者	渡辺	学習院大学大学院アーカイブズ学専攻博士後期課程 (10月から)	現地調査、マニアル作成の準備事項の検討
事務局	鈴木課長	法政大学 研究開発センター	事務管理

▲研究日程

20

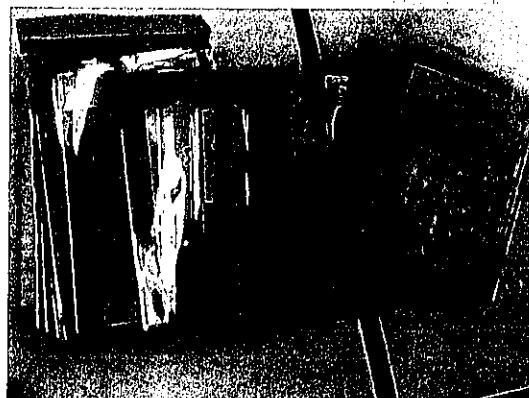
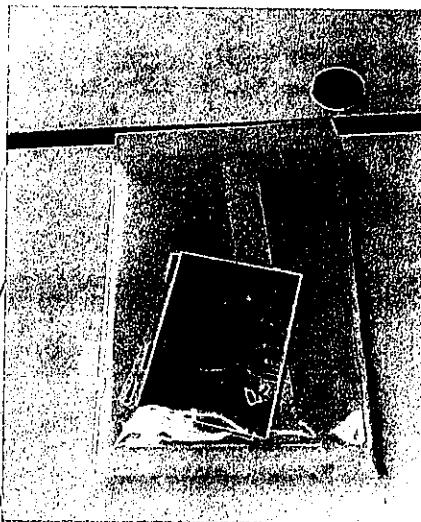
- 7月～8月 研究体制の構築、薬害被害者団体への説明と質疑応答(薬害資料の重要性、被害者団体の資料管理の状況、これからの活動など)、研究会の開催
- 9月～10月 被害者団体の現地調査、見学(東京地域3か所)
- 11月～12月被害者団体の現地調査(関西地域 京都、大阪、滋賀など6か所 MMR、京都スモンなど)、研究会の開催
- 2014年1月～2月 各団体の追加調査(2か所)、現地調査結果の整理
- 3月 総括 報告書作成、研究会の開催

21 資料管理マニュアルの内容(例)

- 各事務活動別シリーズの編成
- 目録作成
- 管理番号
- 封筒作業、保存箱
- 重要記録の管理方法
- 個人情報保護記録の表示

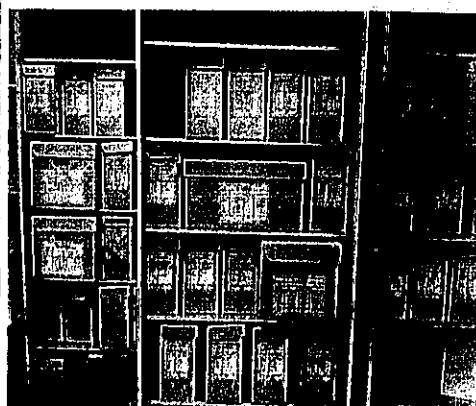
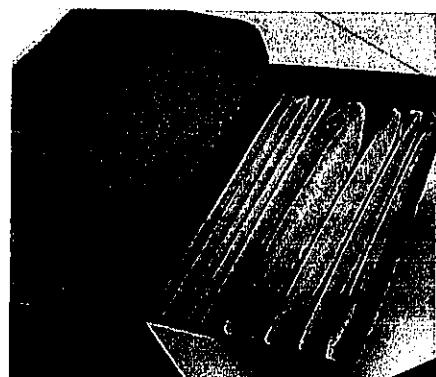
22

紹介：法政大学大原社会問題研究所
環境アーカイブズの資料整理（説明ファイル）



23

保存書架



ご静聴ありがとうございました

法政大学大原社会問題研究所

金 慶南

平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金 法政大学金慶南研究室
薬害に関する資料等の調査・管理・活用に関する研究

平成 25 年 10 月 1 日
学習院大学大学院アーカイブズ学専攻
博士後期課程 斎藤柳子

訴訟団体事務所の調査目的

1. 薬害被害「5つの願い」を実現するために、必要情報の内容と目的を把握する。

- ① 被害の現況と原状回復に至る過程の記録を作成する。
- ② 真実を解明するために、該当する医療情報を入手し、原因を突き止める。
- ③ 国や製薬会社に謝罪を求めるために、被害者情報を述べた資料を作成する。
- ④ 国、行政機関、医療機関へ損害賠償を求めるため、被害者個人情報を作成する。
- ⑤ 再発防止のため、情報を開示する。

2. 何の情報資料を、いつ、どの地点で入手しましたは作成し、活用し、何を長期保存するのか明らかにするため、レコードマネジメント手法を導入する。

健康→病気→診察→治療・服用→薬害／軽い→回復または後遺症
／重い→死亡

各ステップで、以下 4 点を明らかにする。

- ・入手先／入手年月
- ・作成者／作成年月
- ・資料名

・保管状況

3. 具体的調査：2013年9月30日（月） 13:00～ 葉害〇〇弁護士事務所

[観察&撮影]：

保管場所／形態（大きさ）／媒体種類／保有量／内容／点数／資料群名

写真

写真

IV. 調査資料編 (9 団体)

1. (A) 薬害〇〇〇訴訟 (収集記録、記録管理の現状と課題)
2. (B) 薬害〇〇〇訴訟 (収集記録、記録管理の現状と課題)
3. (C) 薬害〇〇〇の会 (収集記録、記録管理の現状と課題)
4. (D) 薬害〇〇〇の会 (収集記録、記録管理の現状と課題)
5. (E) 薬害〇〇〇原告団 (収集記録、記録管理の現状と課題)
6. (F) 薬害〇〇〇会 (収集記録、記録管理の現状と課題)
7. (G) 〇〇〇原告団 (収集記録、記録管理の現状と課題)
8. (H) 〇〇〇協議会 (収集記録、記録管理の現状と課題)
9. (I) 〇〇〇薬害団体 (収集記録、記録管理の現状と課題)

注記: 収集記録の内容、書架写真については、団体の情報保護のため、記されていない。

(A) 薬害〇〇〇訴訟

1. 収集資料（できれば発生順／出所別／原秩序（＝配列順）／代表的な資料名）

- ① 原告団・弁護団（連名）
- ② 支援者・支援団体
- ③ 裁判・和解
- ④ 行政
- ⑤ 病名各種資料
- ⑥ 公害・薬害問題一般(含 一般メディア)
- ⑦ 書籍・雑誌
- ⑧ 運動家個人活動資料
- ⑨ 写真・映像
- ⑩ 著作

2. 記録管理の現状と課題

項目	a.現状	b.課題
1.資料量	26.2Fm (什器外収納率 15%) 資料室の棚は満杯状態、机上、床置き有、1段の書棚に2列収納、ダンボール8箱	資料量増加に対応：PDF化
2.形態・媒体	ほとんど紙資料、A4 サイズ	
3.ファイル名	未記入分多少あるが、廃棄予定のもの	ファイル名の補記
4.ファイル用品	紙資料はバインダー形式 裁判史等は背幅伸縮可能の用品を使用	
5.収納場所	中量棚 5段：1500W1800H450D(1本) オープン棚 3段：1200W900H300D(1本) オープン棚 1段：900W300H300D(1本) 壁面収納棚 5段：900W1800H450D(1.5本)	
6.分類	一覧表にはしていないが有る。2008年国と和解をする前後で分類を変えた。 裁判記録：甲（原告）、乙（国）、丙（製薬会社・〇〇製薬）、丁（製薬会社・〇〇製薬）の区分	
7.機密区分有無	カルテコピー（判決までの21名分すべて） 名簿（3名のみ管理）	機密区分のシールを貼る

8.保存・劣化対策	劣化は問題なし	
9.整理要員	専任1名、責任者1名	
10.その他	のぼり、竿等の収納	<ul style="list-style-type: none"> ・最終的な保管管理者の特定 ・保存・展示コーナーの設置 ・研究者サポートの資料検索システム ・被害者や他訴訟団体との連携の場、談話コーナーの設置

3-1. 書架調査 1

調査場所：薬害〇〇〇訴訟（資料室）

記入者：〇〇
連番：

担当名	什器NO	上からの段数	什器種類	什器外		B4・A3 資料	紙袋	書籍 雑誌	写真 ビデオ CD、DVD	物品・文房具 用紙等	備考
				資料量	A4サイズ バインダー、 レターファイル						
〇〇	0		木製机(丸型)	1.3	1.3						
	1		木製机(長方形) 中量糊1500W 600D1800H	1.5	1.4		0.1				バラの文書あり0.1
	2	上			1.0						ダンボール入り3箱
	1				1.6						
	2				2.8						
	3				3.0						
	4				1.8						
	5				1.4						
	3	上	オープン糊 1200W400D900H		0.3						コピー用紙の箱3箱
	1				1.2						
	2				1.1						
	3				1.0						
	4	上	オープン糊 900W400D400H		0.7						ダンボール2箱
	1				0.8						
	床上				0.9						VTR(リストあり)
	小計				3.7	19.3	0.0	0.0	0.1	0.5	0.4 0.0 20.3

資料量調査:0.5fm単位で記入

3-2. 書架調査 2

調査場所: 葉官〇〇〇訴訟(会議室)

	5	1	ガラス両開 90W45D700H		0.5		0.5		0.1		
	2				0.5				0.4		
	3	鉄両開900W45D900H		0.5				0.1			
	4			0.6							
	5		0.4								
	6	1		1.0							
		2		1.1							
		3		0.6							
		4		0.0							
		5		0.0							
		上 テーブル		0.3	0.3						
小計2				0.3	5.4	0.0	0.0	0.1	0.5	0.0	0.0
											5.9
		総合計 (小計1+2)		4.0	24.7	0.0	0.0	0.2	1.0	0.4	0.0
											26.2

付器外比率 15.3%

(A) 薬害〇〇〇訴訟の資料保存状態写真

記録物の全体写真、書架別、形態別の写真

<注記>

- ◎記録物の保存の現況が把握できるように現場の写真を有りのままに管理する。
- ◎各書庫・資料室、書架別に写真を撮って管理する。
- ◎今後、各団体に渡して、資料整理のための基礎データとして活用する。
- ◎団体の要請により、写真の掲載はしません。

2. (B) 薬害〇〇〇訴訟

1. 収集資料（できれば発生順／出所別／原秩序（＝配列順）／代表的な資料名）

- ① 原告団・弁護団
- ② 支援者・支援団体
- ③ 裁判・和解
- ④ 行政
- ⑤ 病名各種資料
- ⑥ 公害・薬害問題一般(含 一般メディア)：特になし
- ⑦ 書籍・雑誌
- ⑧ 運動家個人活動資料
- ⑨ 写真・映像
- ⑩ 著作
- ⑪ その他の情報

2. 記録管理の現状と課題

項目	a.現状	b.課題
1.資料量	11.6Fm (什器外収納率 7%) (含 〇〇弁護士事務所保管分)	資料量増加に対応：PDF化 本・会報の在庫の増加
2.形態・媒体	紙資料 (A4 主体、B4 少々)、 レントゲンフィルム 時系列にファイルされていない。	
3.ファイル名	ファイル名と中身の一致が不明確のものあり 作成者本人だけしかわからない。 大まかなファイル名で目録を作成しても、中 身が特定できにくい。	ファイル名の補記 ファイル名の標準化
4.ファイル用品	紙資料はバインダー、レターファイル 紙袋、横積み	ファイル方法の改善 ファイルの横積みはやめる。
5.収納場所	両開保管庫 5段：900W/1800H/450D(3本) スモンセンター／〇〇弁護士事務所に分散	
6.分類	裁判記録は甲乙丙で区分、リストあり。	
7.機密区分有無	個別原告記録は非公開 匿名はイニシャルで表示	PDF化とパスワード設定
8.保存・劣化対策	ビデオテープの劣化 (ロッカーの中で密閉)	DVD等媒体変換

	1996年開始~2002年和解であるが、5年目の時の映像記録が劣化し不明点発生。	資料劣化対策
9.整理要員	専任1名	整理用のリストを今後配布
10.その他	のぼり	<p>保管場所：資料の場所代としてスモンセンターへ供出金支払。</p> <p>弁護団事務所が管理している。</p> <p>保存年限の設定</p> <p>整理が追いつかない。方法がわからない。整理をしなければという意識はある。</p>

3. 書架調査

調査場所: 東京〇〇〇訴訟 事務室小部屋

連番: 1/1

記入者: 〇〇

担当名	什器NO	上からの段数	什器種類	什器外 資料量	A4サイズ レターファイル	B4・A3 フォルダー	紙袋	書籍 雑誌	写真 ビデオ CD,DVD	物品・文房具 用紙等	備考
〇〇	1	1	両開保管庫	0.25							
		2									
	3										0.4 空ファイル
	4			0.85							PDF化
	5			0.1							
2	上			0.4							
	1		両開保管庫	0.45							
	2			0.4							
	3			0.7		0.1				0.08	丙58はB版で
	4			0.7						0.2	最終準備書面
	5			0.8		0.1				0.16	自治医大レントゲンフィルム COPY
3	1		両開保管庫								
	2			0.15						1.1	本の在庫
	3									0.3	
	4									1.1	
	5			0.4						0.15	0.2 CD／備品
机上				0.2							PDF作成中
手提げ袋				0.2							
〇〇事務所				1.6							裁判記録
合計				7.2	0	0	0.3	0	1.37	0.46	2.25 11.58

資料量調査: 0.5fm単位で記入

0.068965517

(B) 薬害〇〇〇訴訟の資料保存状態写真

記録物の全体写真、書架別、形態別の写真

<注記>

- ◎記録物の保存の現況が把握できるように現場の写真を有りのままに管理する。
- ◎各書庫・資料室、書架別に写真を撮って管理する。
- ◎今後、各団体に渡して、資料整理のための基礎データとして活用する。
- ◎団体の要請により、写真の掲載はしません。

3. (C) 薬害〇〇〇の会

1. 収集資料（できれば発生順／出所別／原秩序（=配列順）／代表的な資料名）

- ① 原告団・弁護団
- ② 支援者・支援団体
- ③ 裁判・和解
- ④ 行政
- ⑤ 病名各種資料
- ⑥ 公害・薬害問題一般(含 一般メディア)：特になし
- ⑦ 書籍・雑誌
- ⑧ 運動家個人活動資料
- ⑨ 写真・映像
- ⑩ 著作
- ⑪ その他の情報

2. 記録管理の現状と課題

項目	a.現状	b.課題
1.資料量	29.8Fm（什器外収納率 31%） 事務所西側にカーテンで仕切ったスペースがあり、会計伝票のダンボールが山積み	保存年限を設定し廃棄検討
2.形態・媒体	ほとんど紙資料、A4 サイズ スライド、テープ	8ミリテープの媒体変換
3.ファイル名	墨と筆で記載され、明確である。発生年度も記入されている。	
4.ファイル用品	バインダーは少なくレターファイルが多い。 個人別ファイルは統一した黄色の B5 サイズのファイルを使用	B5、A4 が混在。今後 A4 に統一していくべき。
5.収納場所	中量棚 5 段 : 1200W2100H650D(1本) 1200W1800H650D(1本) オープン棚 4 段 : 900W1500H260D(2本) 引違戸棚 3 段+2 段積層 : 900W900H450D(2本) 衣装ロッカー : 900W1800H450D(1本) 事務机 : 4 台	保管スペースは十分である。

6.分類	特に設定していないが、保管場所で振り分け	
7.機密区分有無	個人別ファイルは扉付き収納什器に保管管理	機密区分のシールを貼る
8.保存・劣化対策	現状では劣化は問題なし	
9.整理要員	たまに来られる 1名が整理好きである。	
10.その他	チラシ、会報→棚に平積みしてあり、来訪者が取りやすいように見せている。	■エクセルの所有ファイル名のリスト作成は、ご担当が高齢のため、撮影した写真を見て、調査者が記載する。

3. 書架調査

調査場所: 薬害〇〇〇の会

記入者: 〇〇

連番:

担当名	什器NO	上からの段数	什器種類	什器外	A4サイズ		B4・A3	紙袋	書類 雑誌	写真 ビデオ CD、DVD	物品・文房具 用紙等	備考
				資料量	バインダー、 レターファイル	フォルダー						
〇〇	1	1	引違戸棚3段 900W/450D/900H		0.2							
		2									0.2	
		3			0.3						0.2	
		4	引違戸棚2段 900W/450D/900H		0.8							
		5			0.8							
2	1	オーブン棚(本体)		0.4					0.1			地図
	2			0.3						0.5		
	3					0.05				0.7		
	4									0.6	0.1	
3	外	台		8.6				0.4				会計伝票
	1										1.0	
	2									0.4	0.6	
4	1~3	ロッカー		0								衣類
	4~6			0.8								個人別ファイル
5	1	引違戸棚3段 900W/450D/900H		0.8								
	2			0.05							0.05	
	3			0.8								
	4	引違戸棚2段 900W/450D/900H		0.8								個人別ファイル
	5			0.7								個人別ファイル
6	1	オーブン棚 1200W/600D/2100H									0.16	
	2										0.3	
	3								0.5			
	4						0.2					
	5										0.8	
7	1	オーブン棚 1200W/600D/1800H									0.4	
	2										0.4	
	3								1.6			印刷物
	4						0.4	0.1				
	5										0.4	
8	1	オーブン棚(冰庫) 900/260D/1500H							0.8			
	2								0.8			
	3								0.8			
	4								0.8			
ア	机		0.3									
イ	机									0.2	印鑑	
ウ	机		0.1								0.1	
エ	机		0.2							0.2	スライド	
合計				9.2	6.75	0	0.05	1	5.5	2.4	4.91	29.81

(C) 薬害〇〇〇の会の資料保存状態写真

記録物の全体写真、書架別、形態別の写真

<注記>

- ◎記録物の保存の現況が把握できるように現場の写真を有りのままに管理する。
- ◎各書庫・資料室、書架別に写真を撮って管理する。
- ◎今後、各団体に渡して、資料整理のための基礎データとして活用する。
- ◎団体の要請により、写真の掲載はしません。



4. (D) 薬害○○○会

1. 収集資料（できれば発生順／出所別／原秩序（=配列順）／代表的な資料名）

想定できる文書群を A～K で示している。

- ① 原告団・弁護団（連名）
- ② 支援者・支援団体
- ③ 裁判
- ④ 行政
- ⑤ 病名各種資料
- ⑥ 公害・薬害問題一般(含 一般メディア)
- ⑦ 書籍・雑誌
- ⑧ 運動家個人活動資料（篤志家は特にいない）
- ⑨ 写真・映像
- ⑩ 著作

2. 記録管理の現状と課題

項目	a.現状	b.課題
1.資料量	インタビューより想定：1.8×5 段×2 本 =18fm	資料量増加に対応：PDF化
2.形態・媒体	モノの区分はできていない。	
3.ファイル名	全く行われていない。	ファイル名の3要素を記載
4.ファイル用品	使用していない。	整理用としてファイルボックス、完成ファイルを綴じるための用品が必要。
5.収納場所	中量棚 5 段：1800W1800H450D(2本)	
6.分類	バーチャルで分類 (A～K)	
7.機密区分有無	未分化	機密区分のシールを貼る
8.保存・劣化対策	感光紙のコピー、FAXが劣化してきている。	早急に電子化
9.整理要員	専任 1 名	

10.その他		〇〇〇も含め、薬害でなくて も「全国予防接種被害者の会 (1970年～2000年代のもの で東京・名古屋・大阪・福岡)」 に40代の人がいるので視野 を広げておきたい。
--------	--	---

(D) 薬害〇〇〇の会の資料保存状態写真

記録物の写真

<注記>

- ◎記録物の保存の現況が把握できるように現場の写真を有りのままに掲載する。
- ◎今後、各団体に渡して、資料整理のための基礎データとして活用する。
- ◎団体の情報を保護するため、写真の大きさを小さくして情報見えないように掲載している。
- ◎個人の情報を保護するため、人物の写真は掲載していない。

5. (E) 薬害〇〇〇原告団

1. 収集資料（できれば発生順／出所別／原秩序（=配列順）／代表的な資料名）

① 原告団・弁護団

AからLまで分類、文書、新聞類など

② 支援者・支援団体

③ 裁判・和解

④ 行政

⑤ 病名各種資料

⑥ 公害・薬害問題一般(含 一般メディア)：特になし

⑦ 書籍・雑誌

⑧ 運動家個人活動資料

⑨ 写真・映像

2. 記録管理の現状と課題

項目	a.現状	b.課題
1.資料量	11.0fm すべての紙文書を電子化。廃棄はこれから。	紙と電子の両方保存する必要のあるものを選別する。
2.形態・媒体	〇〇弁護士の部屋にバインダー綴じで保管。 〇〇秘書の作業室 A では紙文書の束はスキャンして HHD に保存後、廃棄予定	
3.ファイル名	コード化 例：「甲 A14 の 1 号証」「ア社主張書面」	年月の記入はないが、「原告証拠説明書」の一覧表で参照可
4.ファイル用品	パイプファイル 一部、紙袋や横積み文書あり。	2014 年度に本にまとめる予定。紙媒体はページを繰りながら閲覧できるので便利であり、紙文書も持っていたい意向。
5.収納場所	900W1800H450D(オープン棚)×2本：1~4段 900W900H350D(両開き)×1本：1~3段 5Fに書庫あり。	一次的に紙文書が増加する傾向があるので、常に棚スペースに余裕が必要。 現在床置きがみられる。
6.分類	甲乙丙+アルファベット記号+連番	問題なし
7.機密区分有無	ログインパスワードを設定。 匿名希望の原告もいるので、原告名の表示は	問題なし

	{東京個一1}とナンバリングしている。 対外発表時は、近沢さん以外は名前を伏せている。	
8.保存・劣化対策	事件発生が2002年と比較的新しいので、考慮していない。	しかし11年は経過している。
9.整理要員	○○秘書	いつまでも片付かない。
10.その他	分類A~Lまでの区分は弁護団が行う、 コード変換は弁護団に確認する。 Web統合を将来的に考えていない。	最高裁で敗訴したデータの保存について検討

3. 書架調査

調査場所: 業者〇〇〇原告団被害者事務所の作業室

連番:

記入者: 〇〇

担当名	什器NO	上からの段数	什器種類	什器外 資料量	A4サイズ ハイドー、 レターファイル	B4・A3 紐綴じ	紙袋	書籍 雑誌	写真 ビデオ CD、DVD	物品・文房具 用紙等	備考
〇〇	1	1	オープン棚5段 900W/1800H/450D		0.7						
		2			0.85						
		3			0.7						
		4			0.6						
			床上								5段目は別の案件で利用
	2	1	オープン棚5段 900W/1800H/450D		0.8						
		2			0.8						
		3			0.8						
		4			0.3						
	3	1	両開き保管庫 900W/350D/900H								0.2
		2			0.8						
		3			0.7						
	A	机		0.6	0.6						
				0.1							
				0.3							
				0.4							
										0.1	
合計				1.4	7.65	0	0	1.1	1.75	0.35	0.1
											10.95

資料量調査: 0.5fm単位で記入

15.98%

什器外率

書籍比率

12.79%

(E) 薬害〇〇〇原告団の資料保存状態写真

記録物の全体写真、書架別、形態別の写真

<注記>

- ◎記録物の保存の現況が把握できるように現場の写真を有りのままに管理する。
- ◎各書庫・資料室、書架別に写真を撮って管理する。
- ◎今後、各団体に渡して、資料整理のための基礎データとして活用する。
- ◎団体の要請により、写真の掲載はしません。

6. (F) 薬害○○○会

1. 収集資料（できれば発生順／出所別／原秩序（=配列順）／代表的な資料名）

- ① 原告（団）・弁護（団）士
- ② 支援者・支援団体
- ③ 裁判・和解
- ④ 行政
- ⑤ 病名各種資料
- ⑥ 公告・薬害問題一般（含 一般メディア）
- ⑦ 書籍・雑誌
- ⑧ 運動家個人活動資料
- ⑨ 写真・映像

2. 記録管理の現状と課題

項目	a.現状	b.課題
1.資料量	16.3fm（全体の 62%は書籍と配布用資料）	ファイル対象文書量は少ないので、整理する用品があれば、すぐ終了できそうである。
2.形態・媒体	紙媒体中心 VHSテープ、音声テープ	DVDへの変換
3.ファイル名	「安全の○○ネットワーク」会報年 6 回発行 ファイル用品を使っていないので、ファイル名もない。	
4.ファイル用品	バインダー、クリアファイルは少々、紙袋多い。	○○さんの裁判記録だけでも、ファイルを整えたい。現在すべて紙袋である。 ファイル用品とそれを収納できる適切な収納什器が必要である。とりあえずファイルボックスがあれば多少片付く。
5.収納場所	IF 洋間：本棚、押し入れ、白のタンス 5 段 IF 和室：押し入れ下段	
6.分類	PC ではすべて D ドライブにワード、パワーポイントを入れている。東京地裁全面勝訴の時の訴状そのものは持っていない。	バラバラにダンボールやクリアケースに収納されているので、分類を考える必要あり。

7.機密区分有無	なし	機密判断のため目録化が必要
8.保存・劣化対策	なし	
9.整理要員	いない	
10.その他	レセプト請求で判明したが、使っていない薬剤の点数が記入され、改ざんが証明された。 いかに記録が大切かわかった。(〇〇さん)	

3. 書架調査

調査場所：東京〇〇〇会

記入者：〇〇
連番：

担当名	什器NO	上から〇段の段数	什器種類	什器外 資料叢	A4サイズ		紙袋	書籍 雑誌	物品・文房具 ビデオ CD、DVD	用紙等	備考
					ハインダーレターファイル	紐綴じ					
〇〇 事務押し入れ、 両開き	1～5	クリスタルケース							0.8		全般の〇〇〇
	1～3	クリスタルケース							1.8		電話相談ノート、医者のイントビューエンタビュードクター、弁護士を紹介したひどいのみ
		ダンボール 黒色(〇〇〇)				0.4			0.4		医学文献
		ダンボール(日本～ の記述)									ファイル、裁判関係 二の中でも黄色のクリアファイルが重要
		ダンボール(エビス 両立)									厚労省交渉記録
		黒い缶の中							0.4		裁判資料
		水色のビニール袋							0.25		アンケート
		ダンボール (〇〇みかん)							0.1		ファイル
		ダンボール (大みかん)							0.4		ファイル
床下					1.2				1.2		会報配布用
		プラスティックケース (BUCKLE BOX)							0.4		各被害者が送付してきた訴状
		染漬けの箱							0.4		他の被害者団体の会報
窓側	左より1～3	質線色のバスケット							0.6		新聞記事
	1～2								0.3		厚労省交渉
	木製の台				0.2				0.2		会報在庫
	机の下				0.3				0.8		現在裁判中案件
	白引き出しの左				0.6				0.6		全般〇〇〇(比較的最近のもの)
	白引き出し 1～5	600W/900H/350D							0.75		VHS47本
	書棚	木製ガラス戸							5.2		
	和室の押し入れ	ダンボール							0.5		
合計					2.3	0.4	0	5.35	10.05	0.5	16.3
資料量調査：0.5m ² 単位で記入									61.66%	付器外率	17.18%

(F) 薬害〇〇〇会の資料保存状態写真

記録物の全体写真、書架別、形態別の写真

<注記>

- ◎記録物の保存の現況が把握できるように現場の写真を有りのままに管理する。
- ◎各書庫・資料室、書架別に写真を撮って管理する。
- ◎今後、各団体に渡して、資料整理のための基礎データとして活用する。
- ◎団体の要請により、写真の掲載はしません。

7. (G) ○○○原告団

1. 収集資料（できれば発生順／出所別／原秩序（=配列順）／代表的な資料名）

- ① 原告団・弁護団
- ② 支援者・支援団体
- ③ 裁判・和解
- ④ 行政
- ⑤ 病名各種資料
- ⑥ 公害・薬害問題一般(含 一般メディア)：
- ⑦ 書籍・雑誌
- ⑧ 運動家個人活動資料
- ⑨ 写真・映像

2. 記録管理の現状と課題

項目	a.現状	b.課題
1.資料量	123.2fm	アーカイブズへの評価選別基準の設定。
2.形態・媒体	A4、B4、A3 の紙ファイル VHS (216 本) はすべて DVD&ブルーレイ (22 枚) に変換済。データベースは「ファイルメーカー」を活用	
3.ファイル名	比較的よく書かれているが、いくつかファイル名がないものもある。	
4.ファイル用品	バインダー、レターファイル	
5.収納場所	両開き保管庫、引違戸棚、壁面収納 潤沢な収納什器を持っている。	
6.分類	検討中。まだ決めていない。	定款から機能のキーワードを引き出す。
7.機密区分有無	プライバシーを重視	
8.保存・劣化対策	全く行っていない。	
9.整理要員	4 人	
10.その他	薬害博物館の一部として資料を考えたい。 例：国立ハンセン資料館 Web 上での資料館でも可能。	

3-1. 書架調査

調査場所:〇〇〇原告団

記入者:〇〇

連番:

部屋	什器NO	上からの段数	什器種類	什器外		A4サイズ 資料量	B4・A3	紙袋	書籍 雑誌	写真 ビデオ CD、DVD	物品・文房具 用紙等	備考
				パンダー、 レターファイル	紐縛じ							
分室	162	1~3	ガラス引違い左						2.4			面談した隣の部屋
		1~3	ガラス引違い右						2.4			
		1~3	鉄引違い左						0			
		1~3	鉄引違い戸棚右						0			
	157	1	天板両開き						0			
	158	1~3	オープン棚						1.4			
	161	1~3	鉄引戸棚						0			
	156	1	天板両開き						0			
	159	1~3	鉄引戸棚						0			
	160	1~3	鉄引戸棚						0			
	164	1~3	鉄引戸棚						0			
		床上										すべて廃棄予定
合計				0	0	0	0	0	6.2	0	0	6.2

資料量調査:0.5fm単位で記入

100.00%

0.00%

書籍比率

什器外率

3-2. 書架調査

調査場所: ○○○原告団

記入者: ○○

連番:

部屋	什器NO	上からの段数	什器種類	什器外 資料量	A4サイズ		B4・A3	紙袋	書籍 収録	写真 ビデオ CD, DVD	物品・文房具 用紙等	備考
					パンダード、 レーファイル	ファイルボックス						
事務室	相6	1~3	1800W鉄引違い左		0.7				2.1			
		1~3	鉄引違い右		1.5							新規切替
		4~6	鉄引違い右		0.7	0.2			0.25			
		4~6	鉄引違い左			1.0						
	相38	1~3	1500W鉄引違い左						2.8			冊子在庫
		1~3	1500W鉄引違い右						2.8			冊子在庫
		4~6	1500W鉄引違い左						1.8			冊子在庫
		4~6	1500W鉄引違い右		0.3	0.5			0.2			
	PLUS	1~3	900W鉄引違い左						0.8		0.8	PCソフト、集
	テーブル			1.3					0.5		0.8	冊子在庫、パンフ在庫
C	1~3	開閉式保管庫			2.2		0.8		0.2			B4は○○のもの
	4	ラテラル4段			1.0							裁判資料
		5					0.85					○○○書庫のファイル(1996年)
		6					0.6					
		7					0.6					
B	1~3	開閉式保管庫							2.4			
	4~7	ラテラル4段							2.4			
A	1~3	開閉式保管庫			0.6				1.6			
	4~7	ラテラル4段							3.2			
相29	1	900W天板							0.8			VHS資料
	1~2	800Wガラス引違い							2.4			DVD
	4~6	800W鉄引違い			0.4							会計
相32	1	900W天板			0.3				0.2			
	1~2	800Wオープン棚			0.2						1.0	
	4~6	800W鉄引違い			1.6							
相31	1	900W天板							0.8			PCソフト
	1~2	800Wオープン棚			0.2				1.4			PCソフト
	4~6	800W鉄引違い			1.1							会計
相30	1	800W天板										
	1~2	800Wオープン棚			0.8		0.2		0.6			B4:スクラップ
	4~6	800W鉄引違い							0.3		0.6	モノ資料
相28	1	1500W天板									0.8	HHD
	1~2	1500Wガラス引違い					0.8				0.1	B4:スクラップ
	4~6	1500W鉄引違い			0.8							施錠
相21	1~2				1.6							機密資料
相22	4~6				1.6							機密資料
本棚11	1~2	鉄引違い			1.6							機密資料
	4~6	鉄引違い			1.6							機密資料
本棚9	1~3	900Wガラス引違い			0.6				0.6			取説、カタログ、辞書
											1.8	文具、フロッピー
本棚10	4~6	鉄引違い			1.6							施錠
相40		OA台		0.2	0.2				0.1			
脇机合計		12引出し			4.8							
机上					1.2	1.2						
机上					1.5	1.5						
机上					0.1	0.1						
机上					0.5	0.5						
合計					4.8	29.3	1.7	3.85	0	24.85	3.4	68.8

資料量調査: 0.5fm単位で記入

36.12%

書籍比率

6.98%

什器外率

全体量の

55.84%

(G) ○○○原告団の資料保存状態写真

記録物の全体写真、書架別、形態別の写真

<注記>

- ◎記録物の保存の現況が把握できるように現場の写真を有りのままに管理する。
- ◎各書庫・資料室、書架別に写真を撮って管理する。
- ◎今後、各団体に渡して、資料整理のための基礎データとして活用する。
- ◎団体の要請により、写真の掲載はしません。

8. (H) ○○○協議会

1. 収集資料（できれば発生順／出所別／原秩序（=配列順）／代表的な資料名）

- ① 原告団・弁護団
- ② 支援者・支援団体
- ③ 裁判・和解
- ④ 行政
- ⑤ 病名各種資料
- ⑥ 公害・薬害問題一般(含 一般メディア)：特になし
- ⑦ 書籍・雑誌
- ⑧ 運動家個人活動資料
- ⑨ 写真・映像
- ⑩ その他の情報

2. 記録管理の現状と課題

項目	a.現状	b.課題
1.資料量	13.3fm (什器外収納率 10.2%) 廃棄をしてしまったので、直近 5 年分しか保有していない。紙文書は少なく全体の 61% は書籍冊子である。すでに法政大学に移管したものもある。	アーカイブズへの評価選別基準の設定。
2.形態・媒体	すべて紙資料 →FAX で届くが、用済後廃棄したものが多い。 VHS テープ、音声テープ	借りている部屋が狭いので、紙資料を保存しておくことができず、廃棄するしかなかった。
3.ファイル名	ファイル点数は少ないが、基本的にできている。	
4.ファイル用品	バインダー、レターファイル、板目紙に紐綴じ	
5.収納場所	900W900H450D(戸棚 1 本のうち 1 段のみ使用) 900W900H450D(戸棚 1 本) 1800W900H450D(戸棚 1 本のうち右側 3 段) 500W700H320D (木製棚 1 本) ※別室の窓際にあるもの (古い資料) 900W1800H450D(1 本)	保管スペースが不足 ○○○会と同居の部屋のため、設置されている保管庫の 1/2 しか、割り当てされていない。 天井に突っ張り棒をしているが、保管庫上下の接続をしていないので、3.11 の時、落下した。

	事務机：1台	幸いにも室内から出た後であったので助かった。
6.分類	特にしていない	文書量が少ないので、ファイル名のみで対応可能
7.機密区分有無	別途管理	
8.保存・劣化対策	一般文書は廃棄してしまったため、古いものはない。(平成23年以前はないという話) 一部のモノクロ写真が、セピア色になり始めている。	写真的デジタル化
9.整理要員	事務局1人とアルバイト1名	後継者不足であり、困っている様子である。
10.その他	○○○の緑の旗とたすき少々(残りは○○○大学に移管)	別室にある※保管庫の分を捨てようとしていたが、会報と写真是アーカイブズであると説明した。会計資料も5年分は保存要

3-1. 書架調査

調査場所: ○○○協議会

連番:

記入者: ○○

○○さんが管理しているエリアのみ

担当名	什器器NO	上からの段数	什器種類	什器外		A4サイズ		書籍 雜誌	写真 ビデオ CD,DVD	物品・文房具 用紙等	備考
				資料量	バインダー、 レターファイル	紙袋	B4・A3				
○○	1 1のみ	900W×900H× 450D 鉄引違い							0.8		VHS、DVD、音声テープ
	什器上			0.7	0.1			0.1	0.1	0.3	0.1 健診時のシーツ(ダンボール1)
	2	900W×900H× 450D 鉄引違い、							1.6		
		2								1.2	
		3								1.6	
	3	900×900×450 鉄引違い、									対象外
	4 厚右1	1800W×900H× 450D 鉄引違い、							1.7		
	厚右2			0.3				0.25		0.4	
	厚右3 棚板なし								0.4		配布用冊子
	5 上 木製棚450W	0.45	0.1					0.15		0.2 ○○さんデスク左	
		1						0.4			
		2								0.2	
		3		0.1				0.3			
机 上		0.2						0.2			
		左引出し		0.4							
		右引出し		0.45							会計資料
	6 1~3	900W×900H× 450D 鉄引違い、		0.5	1.1			0.25			部屋の外際(古いもの)
合計				1.35	1.95	1.1	0	0.1	8.15	1.1	0.9 13.3

資料量調査: 0.5fm単位で記入

書籍比率
61.28%什器外率
10.15%

3-2. 書架調査

調査場所: ○○○協議会の裁判記録

連番:

記入者: ○○

担当名	什器NO	上から 段数	什器種類	什器外 資料量	A4サイズ		紙袋	書籍 雑誌	写真 ビデオ CD、DVD	物品・文房具 用紙等	備考
					バインダー、 レターファイル	フォルダー					
○○	4 1～5	ガラス引戸棚	5								ガラス引戸棚1000W×300D × 1800H
	5 1～5	ガラス引戸棚	5								ガラス引戸棚1000W×300D × 1800H
	6 1～5	ガラス引戸棚	5								ガラス引戸棚1000W×300D × 1800H
合計							15				15

資料量調査: 0.5fm単位で記入

(H) ○○○協議会の資料保存状態写真

記録物の全体写真、書架別、形態別の写真

<注記>

- ◎記録物の保存の現況が把握できるように現場の写真を有りのままに管理する。
- ◎各書庫・資料室、書架別に写真を撮って管理する。
- ◎今後、各団体に渡して、資料整理のための基礎データとして活用する。
- ◎団体の要請により、写真の掲載はしません。

9. (I) ○○○薬害団体

1. 収集資料（できれば発生順／出所別／原秩序（＝配列順）／代表的な資料名）

- ① 原告団・弁護団
- ② 支援者・支援団体
- ③ 裁判・和解
- ④ 行政
- ⑤ 病名各種資料
- ⑥ 公害・薬害問題一般(含 一般メディア)
- ⑦ 書籍・雑誌（かつて職員の一人が、○○○図書館とつくろうとしたが 2 年前に退職）
- ⑧ 運動家個人活動資料
- ⑨ 写真・映像

2. 記録管理の現状と課題

項目	a.現状	b.課題
1.資料量	79.1fm 2 年前に重複分シュレッダーを委託して廃棄した（車にシュレッダーを積み目前で実施）。 床上に 8 個のダンボールが未整理。	
2.形態・媒体	A4、B4、B5 の紙ファイル 診断書は電子化済（ニチマイに委託。資料は持出し不可のため、訪問してスキャニング作業） 開封不可の個人情報含むものはダンボール箱のまま棚に保管。	診断書は保存年限 5 年経過後のものが、病院から送付される。レントゲン写真は劣化が進んでいるが、対策をとっていない。
3.ファイル名	比較的よく書かれている。	
4.ファイル用品	バインダー、レターファイル、フォルダーとボックス、黒紐綴じ、マチ付きフォルダー、写真用ファイル、製本	
5.収納場所	1F 書庫：3 連、2 連の移動ラック。内訳： オープン棚 6 段（900W/450D/1800H）：10 本、 両開き保管庫 3 段+ラテラルキャビネット 3 段（同サイズ）：5 本 什器の内容表示あり。	1F 書庫に集中。 但し、2F の事務所スペースは見ていない。

6.分類	本／裁判記録／証書等、大枠は3年前からできている。	
7.機密区分有無	個人情報が多く施錠され、アクセス制限実施。	公開のコンセプトを決める必要あり。本人がどこまで犠牲を払うのか判断が難しい。
8.保存・劣化対策	8 ミルフィルムはCD化。 診断書は電子化。	レントゲンフィルムは媒体変換未実施。
9.整理要員	2～3人（臨時）	2014年度の資料名リストにすぐ利用できるが、開示できないファイル名は黒塗りの必要がある。
10.その他	即時に検索し、取り出すことができない。	データベース化

3. 書架調査

調査場所：(1)〇〇〇〇〇薬害団体

記入者：〇〇

連番：

担当名	什器NO	上から 段数	什器種類	什器外 寸料量	A4サイズ バインダー、 レターファイル	B4-A3 フォルダー	紙袋	書籍 雑誌	写真 ビデオ CD、DVD	物品・文房具 用紙等	備考
〇〇	1 1~6	壁面移動ラック オーブン棚		3.2			0.8				ダンボール箱+手提袋(裁判証書→必 要外は開けない)
	2 1~6	壁面移動ラック オーブン棚		5.2							内数0.4は他回体のもの 「ロリロファイル→当時の中心人物の 証書(製糸会計), ファイルボックスは個人情報 研究論文
	3 1~6	壁面移動ラック オーブン棚			1.4	1.3	1.6			0.8	
	4 1~6	壁面移動ラック オーブン棚						9.6			在庫用出版物
	8 1~6	壁面移動ラック オーブン棚							4.0	0.3	ネガ、写真
	9 1~6	壁面移動ラック オーブン棚		0.3		0.8	0.4		1.6		スクランプ(含寄贈) 音テープ(ケース入り) リスト一覧あり
	10 1~6	壁面移動ラック オーブン棚			0.8	3.0				0.8	DVC(デジタルビデオカメラ)
	11~13 1~6	両開き3段+ ラテラル3段(移 動ラックの最前 面)			14.4					0.3	「〇〇の会」「〇〇」 施錠(個人情報)
	5 1~6	壁面移動ラック オーブン棚		3.2					1.6		裁判記録
	6 1~6	壁面移動ラック オーブン棚							5.1		
	7 1~6	壁面移動ラック オーブン棚		1.3		0.3	2.4		0.5		評議員、会計、〇〇〇ニユース製本
	14 1~6	両開き3段+ ラテラル3段(移 動ラックの最前 面)		4.8							理事会(施錠)
	15 1~6	両開き3段+ ラテラル3段(移 動ラックの最前 面)		4.8							施錠
	床 上			3.2	3.2						ダンボール床置き
合計				3.2	26.8	18.8	2.4	5.2	17.9	7.7	0.3
											79.05

資料量調査: 0.5m²単位で記入

書籍比率

22.64% 什器外率 4.05%

(I) ○○○薬害団体の資料保存状態写真

記録物の全体写真、書架別、形態別の写真

<注記>

- ◎記録物の保存の現況が把握できるように現場の写真を有りのままに管理する。
- ◎各書庫・資料室、書架別に写真を撮って管理する。
- ◎今後、各団体に渡して、資料整理のための基礎データとして活用する。
- ◎団体の要請により、写真の掲載はしません。

V. 参考資料・参考図書

1. 参考資料：資料目録フォーマット（記入例・注意事項）

受入番号	形態記号	ファイル番号	アイテム番号	ファイル名	ファイル作成者	アイテム名	アイテム作成者	アイテム受信者	アイテム作成年月日	公開評価	非公開理由	備考
	P	0001	(※空欄)	薬害①① 原告準備書面	弁護士△△△、□□□	(※空欄)	(※空欄)	(※空欄)	1999.03			
	P	0002		ニュースレター「ひかり」 No.1~24	薬害①①ネットワーク				1999.01~ 1999.12		No.23欠落。	
	P	0003		薬害①① 関連新聞記事スクラップ集	1000				1999.01~ 1999.05			
	P	0004		書簡(FAX)	薬害①①ネットワーク							
	B	0005		書籍『薬害①①裁判の軌跡』	薬害①①原告・弁護団				2003.05.26		同一書籍が1箱に20冊保存されている。	
	B	0006		書籍箱	弁護士△△△				1995~ 2001		薬害①①に関連する身体症状についての参考文献など。	
	V	0007		薬害①①関連テレビ報道 VHSテープボックス	1000				1998.11~ 1999.09		薬害■■■についての報道映像も混入している。	
	V	0008		1999年3月厚労省前抗議集会 写真アルバム No.1~5	薬害①①ネットワーク、弁護士△△△				1999.03.25		集会後のデモの写真は欠落。	
	V	0009		1999年3月厚労省前抗議集会 記録映像DVD 1998~2000	薬害①①ネットワーク				1998.03~ 2000.03			
	E	0010		××高裁判決関連資料	弁護士△△△、□□□				1999.05		web上のストレージサービスにPDF資料として保存。関西・関東共有。	
	M	0011		1999年3月厚労省前抗議集会 で使用したパネル・たすきなど	薬害①①ネットワーク				1999.03		写真パネル・たすきのほか、帽子・鉢巻きなどを含む。	

※(※空欄)の部分は、いずれご入力いただきますが、現時点では空欄のままで結構です。

※水色の項目については、各団体の事情などをうかがいながら調査班側で入力いたします。

●形態記号=紙資料はP／視聴覚資料(VHS、フィルム写真など)はV／出版刊行物(ISBN記号があり価格がついている書籍)はB

2. 参考文献 (書名、著者・編者、出版者、発行年)

<記録学関連図書>

- 『史料館・文書館学への道—記録・文書をどう残すか—』、安澤秀一、吉川弘文館、1985年
- 『史料保存と文書館学』、大藤修・安藤正人著、吉川弘文館、1986年
- 『記録管理と文書館：国際文書館評議会派遣使節第1回文書館振興国際会議報告集』、ICA Mission 受入実行委員会編、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会、1987年
- 『記録管理システム』、ウイリアム・ベネドン著；作山宗久訳、勁草書房、1988年
- 『レコード・マネジメント：記録管理学会誌 = Records management : journal of the Records Management Society of Japan』、記録管理学会 編、記録管理学会、1993年
- 『地域文書館論』、高野修、岩田書院、1995年
- 『記録史料の管理と文書館』、安藤正人、青山英幸編著、北海道大学図書刊行会、1996年
- 『草の根文書館の思想』安藤正人、岩田書院ブックレット3、岩田書院、1998年
- 『記録史料学と現代：アーカイブズの科学をめざして』、安藤正人著、吉川弘文館、1998年
歴史人類学会編『国民国家とアーカイブズ』(日本図書センター、1999年11月)
- 『記録史料記述の国際標準』アーカイブズ・インフォメーション研究会編訳、北海道大学出版会、2001年
- 『情報公開制度のための文書管理：行政編』、紀伊國屋書店、2001年
- 『組織のための知的資産の蓄積と伝承：企業編』、紀伊國屋書店、2001.2
- 『近現代史料の管理と史料認識』鈴江英一、北海道大学図書刊行会、2002年
- 『文化情報学—人類の共同記憶を伝える—』安澤秀一・原田三郎編著、北樹出版、2002年
- 『日本のアーカイブズ論』全史料協編、岩田書院、2003年
- 『アーカイブズの科学』、国文学研究資料館史料館編、柏書房、2003年
- 『地域と歩む史料保存運動』越佐史料調査会編、岩田書院ブックレット9、岩田書院、2003年
- 『電子媒体による公文書等の適切な移管・保存・利用に向けて：調査研究報告』、国立公文書館、2006年
- 記録管理学会・日本アーカイブズ学会共編『入門アーカイブズの世界—記憶と記録を未来に—』(日外アソシエーツ、2006年)
- 『入門アーカイブズの世界：記憶と記録を未来に：翻訳論文集』、記録管理学会、日本アーカイブズ学会共編、日外アソシエーツ、2006年
- 『The 2nd Asia-Pacific conference for archival educators and trainers "The archival science and archival education in the electronic age" professional seminar = 第2回アジア太平洋アーカイブズ学教育国際会議「電子時代におけるアーカイブズ学研究とアーカイブズ学教育」専門セミナー』compiled by Masahito Ando, Kaori Maekawa, Akihiro Hirayama, International Council on Archives, 2006年
- 『アーカイブズの眼—記録の管理と保存の哲学—』大濱徹也、刀水書房、2007年
- 『明日の図書館情報学を拓く：アーカイブズと図書館経営：高山正也先生退職記念論文集』、高山正也先生退職記念論文集刊行会編、樹村房、2007年
- 小川千代子・小出いずみ編『アーカイブへのアクセス—日本の経験、アメリカの経験—』(日外アソシエーツ、2008年)
- 『文書管理・記録管理入門：ファーリングからISOマネジメントまで』、城下直之、日外アソシエーツ、2008年
- 『電子文書保存のしくみと実務：記録管理の基本と標準化』、木村道弘・前田陽二・宮崎一哉著、中央経済社、2008年
- 『研究者のためのアメリカ国立公文書館徹底ガイド』、伸本和彦、凱風社、2008年
- 『今、なぜ記録管理なのか=記録管理のパラダイムシフト：コンプライアンスと説明責任のために』、小谷允志著、日外アソシエーツ、2008年
- 『アジアのアーカイブズと日本：記録を守り記憶を伝える』、安藤正人著、岩田書院、2009年
- 『アーカイブズが社会を変える—公文書管理法と情報革命—』松岡聰明、平凡社新書、2011年
- 『つながる図書館・博物館・文書館』石川徹也ほか編、東京大学出版会、2011年

『実践アーカイブ・マネジメント－自治体・企業・学園の実務－』朝日崇、出版文化社、2011年

『マルチレベルモデル入門：実習：継時データ分析』、安藤正人、ナカニシヤ出版、2011年

『電子記録応用基盤に関する調査検討報告書：クラウド時代の安心安全な電子記録管理：電子記録応用基盤フォーラム(eRAP)』、日本情報経済社会推進協会、2011年

『文書と記録のはざまで：最良の文書・記録管理を求めて』、小谷允志、紀伊國屋書店、2013年

David B. Gracy II, *Archives & Manuscripts: Arrangement & Description*, SAA, 1977

Frebric M. Miller, *Arranging and Describing Archives and Manuscripts*, The society of American Archives Chicago, 1990

SusieR, Bock/Lucy M.Krammer/George Miles, *Guide to the Feliy S. Cohen Papers WAMSS S-1325*, 1991/Revised 2010

＜薬害関連図書＞

『お前は忘れても、俺は忘れへん－「薬害エイズ」絶望からの闘い史上最悪の医療犯罪の真実』、家西悟、ロングセラーズ、1997年

『ミドリ十字と731部隊－薬害エイズはなぜ起きたのか』、松下一成、三一書房、1996年

『薬害エイズ国際会議』、大阪 HIV 訴訟弁護団、彩流社、1998年

『家西悟全記録－薬害エイズと闘う』、家西悟、解放出版社、2000年

『薬害エイズ裁判史第1～5巻』、東京 HIV 原告団、日本評論社、2002年

『薬害 HIV 感染被害者遺族の人生－当事者参加型リサーチから』、山崎喜比古・井上洋士、東京大学出版会、2008年

『健康被害を生きる－薬害 HIV サバイバーとその家族の20年』、井上洋士・伊藤美樹子、山崎喜比古、勁草書房、2010年

『安部英医師「薬害エイズ」事件の真実』、武藤春光・弘中惇一郎、現代人文社、2008年

『薬害エイズ－終わらない悲劇』、櫻井よし子、ダイヤモンド社、1999年

『健康被害を生きる－薬害 HIV サバイバーとその家族の20年』、井上洋士ほか編、勁草書房、2010年

『日本に生きるということ 薬害エイズ被害者が光を見つけるまで』、川田龍平、講談社、2007年

『この国はなぜ被害者を守らないのか 子ども被災と薬害エイズ』、川田龍平、PHP研究所、2013年

『薬害エイズを生きる－帝京大病院交友病患者島田照国の記録』、西野瑠美子、明石書店、1996年

『血の帝国－日米薬害エイズの舞台裏』、マサミ・コバヤシ・ウィーズナー、彩流社、1996年

『新ゴーマニズム宣言スペシャル脱正義論』、小林よしのり、幻冬舎、1996年

『日本のエイズ－薬害の犠牲者たち』、広河隆一、徳間書店、1993年

『薬害エイズ再考－医師から見た薬害エイズの真実』、加沼戒三、花伝社、1998年

『砂時計のなかで－薬害エイズ・HIV 訴訟の全記録』、島本慈子、河出書房新社、1997年

『薬害エイズの真相』、広河隆一、徳間書店、1996年

『いのちの歌薬害肝炎たたかひの軌跡』、山口美智子、毎日新聞社、2010年

『ドキュメント検証 C型肝炎－薬害を放置した国の大罪』、フジテレビ C型肝炎取材班、小学館、2004年

『がんばらんと! 薬害に遭って、見えてきたこと』、福田衣里子、朝日出版社、2009年

『薬害肝炎－誰がC型肝炎を「国民病」にしたか』、大西文恵、金曜日、2005年

『薬害 C型肝炎女たちの闘い－国が屈服した日』、岩澤倫彦・フジテレビ調査報道班、小学館、2008年

『薬害肝炎とのたたかひ－350万人の願いをかかげて』、薬害肝炎全国原告団出版委員会、桐書房、2009年

『薬害肝炎裁判史』、薬害肝炎弁護団、日本評論社、2012年

『薬害ヤコブ病の軌跡(第1巻)裁判編』、薬害ヤコブ病被害者弁護団全国連絡会議、日本評論社、2004年

『薬害ヤコブ病の軌跡(第2巻)被害・運動編』、薬害ヤコブ病被害者弁護団全国連絡会議、日本評論社、2004年

『薬害ヤコブ病－見過ごされた警告』、井元里士、かもがわ出版、1999年

- 『心の叫び—薬害ヤコブ病裁判解決へのみちのり』、薬害ヤコブ病大津訴訟弁護団、かもがわ出版、2003年
- 『いいのちを返せ!—ドキュメント薬害ヤコブ病とたかかった人びと』、矢吹紀人・薬害ヤコブ病闘いの記録編集委員会、あけび書房、2004年
- 『薬害シンドロームを絶て!ぐりかえされた悲劇薬害ヤコブ病』、薬害ヤコブ病問題シンポジウム実行委員会、ケイ・アイ・メディア、2000年
- 『注射による筋短縮症、注射による筋短縮症全国自主検診医師団学術調査委員会、三一書房、1996年
- 筋短縮症一つられた障害児たち』、注射による筋短縮症から子供を守る全国協議会、續文堂出版、1977年
- 『山梨筋短縮症裁判の記録』、山梨筋短縮症裁判弁護団、日本評論社、1994年
- 『薬害スモン』、亀山忠典、大月書店、1977年
- 『薬害を負うって行く』、横山悦子、鶴書院、1997年
- 『岩手スモン運動誌失われた時の叫び—薬害スモンとの闘いとその軌跡』、帷子貢、岩手スモンの会、2000年
- 『スモン被害—薬害根絶のために』、高野哲夫、三一書房、1979年
- 『空前の薬害訴訟—「スモンの教訓」から何を学ぶか』、泉博、丸ノ内出版、1996年
- 『スモン・スキャンダル—世界を蝕む製薬会社』、オッレ・ハンソン、朝日新聞社、1978年
- 『裁かれる現代医療—スモン・隠れた加害者たち』、高橋暁正・水間典昭、筑摩書房、1981年
- 『スモン事件と法』、淡路剛久、有斐閣、1981年
- 『スモン訴訟の記録』、スモン訴訟東京弁護団、スモン訴訟東京弁護団、1983年
- 『薬害スモン全史全4巻』、スモンの会全国連絡協議会、労働旬報社、1981年
- 『グラフィック・ドキュメントスモン』、羽賀しげ子・実川悠太・小林茂、日本評論社、1990年
- 『神と悪魔の薬サリドマイド』、Rock Brnner, Trent Stephens、日経BP社、2001年
- 『サリドマイドと医療の軌跡』、柏森良二、西村書店、2013年
- 『サリドマイド物語』、柏森良二、医歯薬出版、1997年
- 『サリドマイド事件全史』、川俣修壽、緑風出版、2010年
- 『不思議の薬—サリドマイドの話』、鳩飼きい子、潮出版社、2001年
- 『薬品公害と裁判—サリドマイド事件の記録から』、藤木英雄・木田盈四郎、東京大学出版会、1974年
- 『サリドマイド—科学者の証言』、増山元三郎、東京大学出版会、1971年
- 『イレッサ薬害—判決で眞実は明かされたのか』、片平冽彦、桐書房、2013年
- 『陣痛促進剤あなたはどうする—お産の前に一番大切なことについてきちんと説明を受けていますか?』、陣痛促進剤による被害を考える会、さいろ社、2003年
- 『病院で産むあなたへ—クスリ濁け出産で泣かないために』、陣痛促進剤による被害を考える会、さいろ社、1995年
- 『薬害はなぜ隠されたのか—“生け贋”にされた医師の告発』、水沢溪、三一書房、1997年
- 『タミフル薬害—製薬企業と薬事行政の責任と課題』、片平冽彦、桐書房、2009年
- 『知っておきたい薬害の教訓—再発防止を願う被害者からの声』、医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団、薬事日報社、2012年
- 『ノーモア薬害—薬害の歴史に学び』、その根絶を、片平冽彦、桐書房、1997年
- 『薬害過失と因果関係の法理』、塙野隆史、日本評論社、2013年
- 『和英対訳日本の薬害事件—薬事規制と社会的要因からの考察』、一般財団法人医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団、薬事日報社、2013年
- 『厚生省薬害史—行政の歪が見えてくる!厚生省薬事関連訴訟の軌跡』、富塚孝、三一書房、1997年
- 『チバガイギーの内幕—薬害の構造』オッレ・ハンソン、青木書店、1989年
- 『ハンセン病・薬害問題プロジェクト作為・不作為へ』、山本務・熱田一信、本の泉社、2007年
- 『厚生省の「犯罪」—薬害』、毎日新聞薬害エイズ取材班、日本評論社、1997年
- 『日本の薬害』、高野哲夫、大月書店、1979年
- 『戦後薬害問題の研究』、高野哲夫、文理閣、1981年
- 『ドキュメント日本の公害第3巻薬害・食品公害』、川名英之、緑風出版、1989年

- 『薬害を追う記者たち』、毎日新聞大阪医療取材班、三一書房、1996年
- 『薬害の社会学—薬と人間のアイロニー』、宝月誠、世界思想社、1986年
- 『図解薬害・副作用学（みてわかる薬学）』、川西正祐・小野秀樹、南山堂、2013年
- 『薬害はなぜなくならないか—薬の安全のために』、浜六郎、日本評論社、1996年
- 『ノーモア薬害—薬害の歴史に学び』、その根絶を、片平冽彦、桐書房、1997年
- 『腐蝕の連鎖薬害と原発にひそむ人脈』、広瀬隆、集英社、1996年
- 『FDAの知識ジェネリック薬—不安と期待』、石居昭夫、薬事日報社、2012年
- 『薬害と政治—薬の氾濫への処方箋』、フィリップ・R.リー、紀伊国屋書店、1978年
- 『薬害—その医学的・薬学的・法学的側面』、曾田長宗・講談社サイエンティフィク、講談社、1981年
- 『舛添メモ厚労官僚との闘い 752日』、舛添要一、小学館、2009年
- 『厚生労働省戦記—日本政治改革言論』、舛添要一、中央公論新社、2010年
- 『医療事故・カルテ開示・患者の権利』、石井昭男、明石書店、2001年
- 『戦後行政の構造とディレンマー—予防接種行政の変遷』、手塚洋輔、藤原書店、2010年
- 『カルテ改ざんはなぜ起きる—検証:日本と海外』、石川寛俊、日本評論社、2006年
- 『医療と裁判—弁護士として、同伴者として』、石川寛俊、岩波書店、2004年
- 『医薬を近代化した研究と戦略』、山下麻衣著、芙蓉書房出版、2000年
- 『MMRワクチン薬害事件 新3種混合ワクチンの軌跡』 MMR訴訟弁護団編著、2007年

文献番号	201328048A
報告区分	総括
研究年度	平成 25(2013)年度
研究課題名	薬害に関する資料等の調査・管理・活用等に関する研究
課題番号	H25-医薬-指定-003
研究分野名	健康安全確保総合研究
研究事業名	医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究
研究代表者	金 慶南

